

6・人間になったら、したいこと

4から十数分後。

主人公とモニカ、二人でベッドに入っている。  
すでに着替えて、寝る準備は万端。

そこでモニカ、ドキドキと話を切り出す。

**SE1**…部屋の環境音 【トラック1〜5のSE1と同じ。トラック終了まで、ごく小さな音で流す】

**SE2**…モニカがベッドの中でごくそ動く音 【すべて流す】

「ねえ。あなたって、生まれてからの最初の記憶ってわかる？」

〈主人公〉

「覚えてる覚えてる。

児童会館？ の肋木（ろくぼく）に登って遊んでたら、うっかり落下して。  
頭を打ったって記憶だよ」

【予想外にハードなのでギョツとする】

え？ それはいきなり大変な記憶ね。

【気を取り直す】

※ここから次の「※」マークまで、真面目な口調で。

あのね。私の最初の記憶は、あなたが。

今にも死にそうになっている私を、病院に連れて行ってくれる思い出よ。

あの時私、実はもうだめなんじゃないかと思ってたの。

寒くて、苦しくて……。

あなたが頑張ってくれてるのに『もう何をしても無駄よ。私はこのまま死んじゃうの』って、自分を諦めそうになっていたの。

でも、あなたは手を尽くしてくれた。

何のゆかりもない捨て犬の私を拾って、また元気に暮らせるようにしてくれた。

きっと、すぐお金もかかったでしょうに……。

『これから一緒に住もうね』って言ってくれた。

だから私。

あなたとお金持ちで、すぐ余裕のある人なんだろうって、最初の頃は思い込んでいたの。

でも、すぐに違ってたわ。

【泣きそうになる。毎日倒れるほど真面目に働いている主人公を想うと涙が出てくる】

あなたは毎日お仕事大変で、夜遅くまでフラフラになって。崖っぷちのところまで頑張っているのに。本当は、誰かを助ける余裕なんてなかったのに……。

それでも私を拾ってくれたんだって。 ※

あのね。だから。今度は私があなたに色々させてほしいの！

これからいっぱい勉強するし。

アルバイトもして家計も助けちゃうんだから！

【少し間を空けてから】

……大好き。

【真剣に。これを一番伝えたかった】

あの時私を諦めないでいてくれて、ありがとう……」

SE3…『ぼん、ぼん』と主人公がモニカの頭を撫でる音 【トラック4のSE8と同じ音。

0～4秒ほどまで流す】

〈主人公〉

「それは頼もしい！ ありがとう。でも。無理しないでね。

私はモニカと一緒にいてくれるだけで幸せなんだから」

「ダメよ！ 私。断固恩は返す主義なの。

……あ。そういえば、さっきの用事って何だったの？

【申し訳なくてしゅんとする】

私、話も聞かずに追い出してしまったわ」

〈主人公〉

「そうそう。今度近所の神社でお祭りがあるから、一緒に行こうよって誘おうと思ってたの。

花火大会もあるんだよ。どうでしょう？」

SE4…モニカがベッドの中で大きく動く音 【0～2秒ほどまで流す】

【大きくテンションが上がる】

えっ 夏祭り？

行く！ 行くわ！ ぜひ連れて行って頂戴！

【ハッと気づく】

そっか……私。これからはあなたとどこへでも行けるのね。

もう、一人でお留守番なくていいのね！

【さらにテンションが上がる】

あのね！ だったら私！ あなたと行ってみたい場所がたくさんあるの！

まずはね、遊園地でしょう。それから、海でしょう？

それから……それから……。

【眠くなってくる】

んー……」

SE5…モニカがベッドの中で眠そうにもぞもぞ動く音 【0～3秒ほどまで流す】

〈主人公〉

「大丈夫？ モニカ。そろそろ眠いんじゃない？」

【「とても眠い」

んにゃ……まだまだいけるわよ。最近の犬は夜更かしなのよ。

【眠い。話し方が非常にゆっくりになる】

だからね……それから……。それからあ……。

【眠ってしまう】

ぐう……むにゃ……」

主人公、眠ってしまったモニカを見て、思わず笑ってしまう。

モニカの頭を撫で、自分も寝る事にする。

SE6…主人公がモニカの頭を撫でる音 【0～3秒ほどまで流す】

SE7…主人公が部屋の明かりを消す音 【0～2秒ほどまでの、1回目の『ボ、コン』を流す】

SE8…主人公がモニカに布団をかけ直す音 【0～7秒ほどまで流す】

しばらく環境音のみで、そのままフェードアウトする。